

義人は信仰によって生きる

ハバクク書2章

見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。(4)

神に訴えたハバククに対して、幻が与えられるまではしばらく時間がかかるであろうこと、そのためには忍耐して待つことが必要であることを主は告げられました。

自分が考えている時と神の時とが食い違ふとき、人は神の時を待ちきれずに自分の力で行動しようとしています。けれども神の前に正しく歩もうとする人は、たとえ神の計画が今は分からなくても、神を信じ抜いて待つのです。「義人はその信仰によって生きる」。このハバクク書の言葉は、使徒パウロが信仰義認のカギの聖句として引用しました。「神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである」(ローマ17)。人が神の前に義とされるのは、自分たちの良い行いによつてではなく、キリストによつて人間の罪を赦してくださる神の眞実をどこまでも信じ抜くことによります。この聖句はまた、宗教改革者マルチン・ルターを行為義認の苦しみから救い出し、人はただ信仰によつてのみ義とされるという福音のメッセージを、キリスト教信仰の中心に取り戻させることになりました。

わたしたちの拠り所は、主イエスがわたしたちのために十字架にかかつてくださり、それによつて救いが与えられたと信じていることです。この信仰に立ち続けたいと願います。